

いしかわ地域づくり円陣 2022
「つないできたもの、つないでいくもの～祭礼・工芸の継承から学ぶ地域づくり～」
開催報告

開催日時：令和4年12月3日（土）13:00～17:30
会場：石川県地場産業振興センター本館 3 階、
オンライン（Zoomを使用）

【プログラム】

1. 開会・石川地域づくり表彰授賞式

2. 分科会

第 1 ～ 第 4 分科会

3. 全体会

4. 閉会

【参加者数】

(人)

会場	一般	受賞者	分科会登壇者	運営委員・ コーディネーター等	計
地場産	9	4	5	27	45
オンライン	13	—	1	2	16
合計	22	4	6	29	61

【開催内容詳細】

1. 開会・石川地域づくり表彰授賞式

(1) 開会挨拶

主催者を代表して、岡山敏弘石川地域づくり協会副会長から挨拶があった。

(2) 石川地域づくり表彰授賞式

以下の団体に石川地域づくり表彰の授与を行った。

・団体部門・大賞：公益財団法人あくるめ（加賀市）

加賀市において、子どもの未来や活力につながる活動を支援するため設立され、子育て支援や地域の文化継承等に取り組む団体・個人に活動資金を助成するほか、市内の保育園を対象とした自然体験事業等を実施。

企業や商工会などから寄付を募り、地域づくり団体等へ助成金を支給するだけでなく、アドバイスや相談を通じて継続的な活動を手助けしている。

・団体部門・優秀賞：かなざわご近所コラボプロジェクト（金沢市）

金沢市中村町校下における地域コミュニティの熟成と充実を図るなどの取り組みや、地域防災事業等を実施。金沢市や他市町のまちづくり団体と協働しながら、交流イベントなどの活動を通して地域活性化に貢献している。

平成27年度石川地域づくり表彰 団体奨励賞 受賞

・団体部門・奨励賞：大聖寺文化協会（加賀市）

加賀市において、古九谷発祥の碑など市内の文化・市出身の人物や加賀市にゆかりのあるものを地域の人たちに伝承していくことを目的として設立。

加賀市ゆかりの顕彰碑の建立や加賀市の伝説と民話の公演、各家から持ち寄った地元の逸品を紹介する展示会や鑑定会を開催するなど地域住民の関心や興味のある取り組みを行っている。



(3) 審査講評

石川地域づくり表彰審査委員会を代表して、谷本 亙審査委員会座長から、各受賞者の評価されたポイントについての講評があった。

(4) 受賞団体活動紹介

受賞団体から活動紹介をいただいた。



公益財団法人あくるめ

2. 分科会

【第1分科会】（石川地域づくり協会）

テーマ：祭りのつなぐもの～青柏祭入門講座～

<登壇者>

青柏祭祭主・大地主神社宮司 大森 重宜氏

<コーディネーター>

赤須 治郎氏

<概要>

- ・アイスブレイクのあと大森氏のプレゼンがあり、それに対し参加者より質問・意見交換をした。
- ・大森氏からは青柏祭を通して祭りの定義・祭りの機能の紹介があった。また、祭りの神聖性と遊戯性の相関等や非日常性の維持についてお話しいただいた。
- ・公的支援の在り方や住民主体の活動の在り方、祭りの見える化について、祭りの創造性と芸術性についての意見交換を行った。また、参加者からは「祭りを運営するうえで組織化に課題がある」などといった意見があった。

<分科会の様子>



【第2分科会】（北國とおり町にぎわい協議会（小松市））

テーマ：祭りから教わった、若手商店主が創る街～アボなし店主突撃！からはじめるまちづくり～

<登壇者>

北國とおり町にぎわい協議会 辻 奈穂子氏

<コーディネーター>

田村 薫氏

<概要>

- ・辻氏から祭りを通しての学びについてお話いただいたあと、広報チーム、インバウンドチーム、街並みチームにわかれてワークショップを行い話し合いをした。途中、現地の商店主とオンラインで中継をつなぎ、インタビューなどを行った。
- ・辻氏からは、祭りを通して子どもから大人が世代を超えて関わっていくことで、町との関わりの基盤ができ、まちづくりの原動力になるとのお話があった。
- ・新幹線開業が迫るなか、多くの人に訪れてもらうための仕掛けづくりが課題であり、参加者からは、「百万石まつりや青柏祭などと連携して広報すれば良いのではないか、どん

な人がお店をやっているのかがわかるような、「顔の見える町」として広報すると良いのではないか」などの意見があった。

<分科会の様子>



【第3分科会】（奥能登国際芸術祭実行委員会（珠洲市））

テーマ：地域の魅力をアートで発信～市民13,000人でつくる芸術祭を目指して～

<登壇者>

珠洲市奥能登国際芸術祭推進室 水上 昌子氏

スズ・シアター・ミュージアム 吉原 忠男氏

<コーディネーター>

北 豊弥氏

<概要>

- ・水上氏の活動紹介のあと、課題をふせんに書き出し問題を分析した。
- ・水上氏からは、奥能登国際芸術祭の概要や開催目的、成果や課題などについてお話しいただいた。また、スズ・シアター・ミュージアム運営委員の吉原氏にもご登壇いただいた。
- ・参加者からあげられた「ボランティアやスタッフの数が不足している、地域住民の参加が思うように進まない、高齢者が多いため新しい試みになじみにくい」などの課題を、目に見える課題（家庭・職場・地域・社会などの視点）と目に見えない課題（気持ち・思い・心などの視点）にわけて分析した。

<分科会の様子>



【第4分科会】（輪島漆再生プロジェクト実行委員会（輪島市））

テーマ：伝統工芸を受け継ぐために地域は何ができる？～作り手と使い手をつなぐ地域の役割とは～

<登壇者>

輪島漆再生プロジェクト実行委員会 高 禎蓮氏

<コーディネーター>

大西 直之氏

<概要>

- ・高氏から輪島漆再生プロジェクト実行委員会の活動についてお話しいただいたあと、課題とその解決法をヒト・モノ・コト・カネのそれぞれの視点から書き出した。
- ・高氏からは、プロジェクトの活動内容や立ち上げの背景、彦十蒔絵の成功事例、今後の展望と課題などをお話しいただいた。
- ・参加者からは、後継者不足、技術者の高齢化といった課題に対して、後継者を育てるために、まず若い人の憧れや目標になるような輪島塗のアイドルづくりが必要ではないか、などの意見があった。

<分科会の様子>



3. 全体会

濱コーディネーターの進行により、全体会が行われた。

全体会では、各分科会の担当コーディネーターや登壇者から、各分科会で出た特徴的な話、印象に残った話などを発表した。

<第1分科会について赤須コーディネーターから報告>

- ・祭りの文化化、観光化、健全化は祭りをつまらなくするというお話がとても印象的だった。
- ・祭りは神様の行事であるが、信仰で結びついているかというところ必ずしもそうではなく、祭りをやることで参加者の信頼感が高まるという機能があるのではないかというお話もあった。
- ・祭りは複雑な仕組みでできていて、一面的に説明できないというところは、地域づくりと同じであると感じる。
- ・祭りの担い手が減り、つないでいくことが非常に危機的状況になった原因は、単純に地域の人数が減っているということではなく、地域の人同士のつながりが希薄になってきたためではないか。

<第2分科会について辻氏から報告>

- ・小松の「お旅祭り」から学んだことが、どうまちづくりに活かされているかということをお話しした。
- ・北國とおり町の若手商店主が集まった「賑わい部」で、人が楽しく集まる街にしていける方法を考えている。自分たちだけでは解決できない課題もあるが、そんな中でなにができるか日々考えている。立ち止まらず、思ったらまずやってみるということが大事だと思う。
- ・ワークショップで、広報チーム、インバウンドチーム、街並みチームにわかれて話し合いをした結果、広報チームからは、「人の顔が見える町」というキーワードが出た。インバウンドチームからは空き地を駐車場として有効活用できないか、マイマップを作るのはいかがでしょうかの意見があった。街並みチームからは、いぐさやお茶の香りが漂う街というイメージをまちづくりにつなげられるのではないかとといった意見があった。

<第3分科会について北コーディネーターから報告>

- ・奥能登国際芸術祭を続けていくためにどんな課題があるのか。その課題を解決するためにはどのような活動をしていかなければならないのか、どんな知識が必要なのかということ学んだ。
- ・分科会では、まず芸術祭をつないでいくための問題を抽出し、見えるものと見えないものに分けた。
- ・人は見えるものに意識を囚われがちだが、目に見えない部分をしっかりやっていると、見える部分も解決されない。見える部分だけを追いかけていても一時的な対処にしかない。
- ・解決に向けて必要な知識については時間がなくてお話しできなかったが、その知識を得られる場所として、協会のコーディネーター派遣制度をご活用いただきたい。
- ・普段のイベントは、自分たちで、自分たちの地域の魅力を何とか探すものだが、奥能登国際芸術祭は有名なアーティストが来て魅力を見つけてくれたり、メッセージをのせて作品にしてくれる。来訪者はそれを読み解く面白さを感じ、リピーターになる、という仕掛けができています。仕掛けるイベントは非常に大切。今後イベントを企画したり、既存のイベントを改善する際に参考にしていきたいと感じた。

<第4分科会について大西コーディネーターから報告>

- ・輪島漆再生プロジェクトの活動と彦十蒔絵の成功事例などをお話しいただいた。
- ・課題、その解決法をヒト・モノ・コト・カネのそれぞれの視点から書き出した。
- ・主な意見として、「ヒト」の視点からは、後継者不足・技術者の高齢化といった課題に対し、若い人が目指したいと思うような人材づくり、県外から技術を学びにきた人が定着できる環境づくり（仕事など）、顧客と職人をつなぐコーディネーターの育成などの解決法があげられた。「モノ」の視点からは、輪島塗にはストーリー性があるのでそれを伝えていかなければならない。最近は食洗器で洗える漆塗が開発されたりしているが、輪島塗はそういう方向ではなく、芸術性などのほうに振っていかなければならないのではないかとといった意見があった。「コト」の視点からは、輪島塗がどんなものなのかSNS等を通じ発信していくことが大事。日本もそうだが、世界の富裕層にも知ってもらい、販路を広げていく必要があるとの意見があった。「カネ」の視点からは、助成金を受けてやっているところが多いが、旅費や営業費など部分的な支援があってもよい、東京のデパートや画廊などで売り込むのもよいのではないかとといった意見があ

った。

<全体会の様子>



4. 閉会

全体会終了後、谷口 健一 石川地域づくり協会運営委員長より挨拶があり、閉会となった。